



いちいの会 だより

平成30年
47号

発行/社会福祉法人 いちいの会 <http://www.ichiinokai.com/>

ICHIINOKAI VOL. 47



新年度を迎えて

社会福祉法人いちいの会 理事長 児嶋 政明

みなさま、こんにちは。

桜の花が各地で満開を迎える中、4月1日から新年度が始まりました。この機会に昨年度を振り返るとともに、新年度の展望についてご説明したいと思います。

まず、昨年度は、おかげさまで、当法人の各事業ともにおおむね順調に推移いたしました。また、社会福祉法の改正に伴うガバナンスの強化や透明性の確保などについて対応を進めるとともに、地域における公益的な取組みとして、無償での障害児（者）発達検査、利用者が負担する費用の一部減額、専門的な研修会の無料での開催などを実施いたしました。

7月には、くすのき苑から水路を挟んで南側の土地約1,600坪を取得しました。この土地にはグループホームゆりの木やワークショップ3号館などが建っていますが、さらなる活用を図っていきます。11月のくすのき祭は良いお天気で、地域のみなさまや関係者のみなさまに大勢お越しいただいて賑わいました。みなさまありがとうございました。年が明けて2月には、くすのき苑の玄関に間仕切りが完成しました。白を基調にした明るい間仕切りです。

新年度においては、各事業について「笑顔」をテーマに運営を続けます。また、引き続きガバナンスの強化や透明性の確保、地域における公益的な取組みを進めてまいります。経済的には、給付費などの収入が微増にとどまるとされる一方、景気の回復や人材の確保などから人件費や諸費用のかなりの上昇が見込まれます。厳しい環境の中、慎重に舵を取ってまいります。設備面では、各事業所の設備の補修・改修を進めるとともに、くすのき苑の中庭の増築について本格的な検討を始めます。また、人材の育成にも注力いたします。

新年度も役職員一同力を合わせて、設立理念の「利用者第一の充実した支援サービス」と「地域の期待への対応」において着実な努力を重ねていく所存ですので、みなさまには引き続きのご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。



- 目次●
- ◇理事長挨拶…… 1
- ◇家族会役員改選
各事業所より…… 2
- ◇事業所だより…… 3
- ◇誕生日外出
職員日記…… 4
- ◇行事いろいろ…… 5
- ◇新任職員紹介
行事報告
編集後記…… 6

家族会 役員改選

3月31日に家族会の総会において、4月からの新しい役員が改選されました。

総会后、家族会の皆様が苑内に芝桜の植え付けを行って下さいました。窓から見える色とりどりの花に、利用者さんも職員も癒されています。



30年度 家族会 役員名簿

会長	鈴木 良造		
副会長	染谷 信一	副会長	金子 敬子
事務局長	大野 祐子		
担当役員	新井 三井	担当役員	佐藤 さつき
担当役員	森 恵美子	担当役員	長 則子
担当役員	寺田 美春	担当役員	鈴木 淑江
担当役員	畠山 美智子		
会計担当	長沼 美代子	会計担当	渡辺 マリ子
会計監査	小俣 由美子	会計監査	高木 美栄子

くすのき苑

副施設長 大谷 篤司

昨年度は、4名の新任職員がくすのき苑に入職しました。福祉関係の仕事を経験して入職してきた職員もいましたが、かつてない新人の多さに教える先輩職員達も多忙な一年だったように思います。その間、私たちは新任職員に対してただ支援の仕方や取り組みを伝えるのではなく、その根拠となるものを伝えていくことの重要性を改めて痛感しました。根拠ではなく、理屈やへ理屈になってしまっはいけないわけで、逆を言えば、根拠のない支援はあまりよろしくない支援なのかもしれません。

この4月から新たにいちいの会で社会人生活をスタートさせる職員に対して、伝えることの出来ない恥ずかしい支援はしていないか、間違った支援はしていないか、自信を持って伝えることの出来る支援とは何かを職員一人ひとりが自覚していかなくてはなりません。

私達はまだまだ若い職員集団です。しかし若いからこそ柔軟な考えを吸収する力、知ろうとする好奇心を多く持っていることが強みでもあると思っています。その向上心を失うことなく各々が知識・技術を磨き、さらに「個の力」を上げていく必要があります。

数年後、くすのき苑の職員が様々な分野で知識と資質を兼ね備えた強いチームとなっていることを信じています。

ワークショップくすのき

副施設長 戸辺 泰介

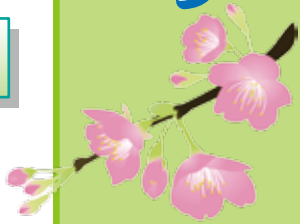
今回、「新年度にかける『想い』」というテーマをいただきました。

とはいえ、今年度は新規の入所者もなく、特に大きな事業展開などの予定もありません。職員配置に余裕がないのも変わりません。思わず、現状維持、という言葉が頭をよぎりますが、サービス業の姿勢として消極的過ぎますよね。そこで、日々堅実に運営を続けつつ、小さなことから業務の見直しを進める一年にしていきたい、と個人的には考えています。

まずは環境の見直し。どちらかというたららない私たち。毎日見慣れていて麻痺していましたが、事業所の中を客観的に眺めると、澱のように未整理の物品が堆積し、竣工から10年経つ建物自体の痛みもだいぶ目立つようになってきました。引き続き目を背けたい気持ちをこらえ、一年をかけて少しずつ、整理整頓と修繕を進め、皆が快適に過ごせる環境づくりを、今年度こそは目指したいです。

次に日課の見直し。これまで内職など屋内作業を軸とした活動を、利用者の皆様に提供してきました。しかし、年を追うごとに、通われている方々の様子にも幅が出てきています。体の機能を保つため今後は運動の必要性が増す方、もっと余暇活動を充実したいが、個別の事情で叶っていない方など様々です。それぞれの日課をがらりと変えるような、大きな変化は難しいですが、現在の日課の隙間を縫うかたちで、わずかながらでも、多様化するニーズに添えていけないものが、昨年度より試行を続けているところです。

以上のいくばくかを達成して、地味ながらもコツコツとサービスの地力を固められた一年だったと、後にふりかえることができれば理想的であります。



のだネット

地域総合コーディネーター 五十嵐 孝子

4月から障害者総合福祉法と児童福祉法の一部改正や障害者サービスの報酬改定など様々な変化の起こる年となります。新たな福祉サービスの創設も明記されていますが、野田市の中でどのように展開されるのかわからないことも多く、動向に注目していきたいと思います。

中核センターは要綱が改正されてから1年が経ちました。対象者が「制度の狭間にある方」「複合的な課題を抱えた方」「広域的な調整が必要な方」等が中心となり、市町村等バックアップ事業が明記されました。改正によって、市からの依頼は増々増えた感じがありますが、対象者に変化はありませんでした。「どなたからの相談も受ける」姿勢に変わりなく、これからも、様々な困りごとを抱えている方の相談に乗り寄り添いながら一緒に解決策を考えていきます。

当たり前の事ですが、支援には「人」の力が欠かせません。連携と簡単に言ってしまっていますが、その機関の役割を理解することや日頃の情報交換は欠かせません。今年度からのだネット主催で、支え手となる方々を対象に勉強会を開催し「生き生きと暮らす方」を支えるために「生き生きと働く人」を増やせたらと考えています。

グループホームかえで

サービス管理責任者 国分 雪江

この4月より、グループホームのサービス管理責任者をさせて頂くことになりました。今年度は清本所長はじめ職員5名体制で運営させていただくことになりました。そして、世話人さんも29年度の後半に2名増え、総勢32名の職員で、入居者さん達が健康で安心した生活が送れるよう支援していきます。

新たな体制でスタートするにあたり、期待もあれば不安な面もあり大変緊張しております。ですが、私の周りには31名の職員が一緒にいます。心強い味方がたくさんおりますので、助け合い励まし合いながら精進していきたいと思います。

昨年度は全ホームで集まれる機会がなかなか作れなかったので、全体で楽しめる場を増やしたり、それぞれの入居者さんの意見を伺い、外出先の幅を広げるなど、新たなことにもチャレンジしていきたいと思っております。そして、入居者さん一人一人の笑顔が増える一年にしたいと思います。そのためには職員間のコミュニケーションを大切に、職員が一致団結していかなければならないと思います。私自身も笑顔で楽しい1年にしたいです。不慣れな点もあるかと思いますが、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い致します。

相談支援センターいちいの木

相談支援専門員 中村 成彦

平成30年度になり、福祉業界は大きく変わろうとしています。新しいサービスとして「自立生活援助」「就労定着支援」事業が創設されます。自立生活援助は障害者支援施設やグループホーム等から一人暮らしへの移行を希望する知的・精神障害者などについて、本人の意思を尊重した地域生活を支援するため、一定期間にわたり定期的な巡回訪問や随時の対応を行う支援です。就労定着支援は、就労移行支援等を利用し、一般就労に移行した障害者の就労に伴う生活上の支援ニーズに対応できるよう、事業所・家族との連絡調整等を一定の期間にわたり行う事業です。両方ともに「自立」を目的としたサービスになっています。その他にも共成型サービス事業があり、障害者が65歳以上になっても、使い慣れた事業所においてサービスを利用しやすくするという観点や福祉に携わる人材に限りがある中で、地域の実情に合わせて人材を上手く活用しながら適切にサービス提供を行う事業です。ホームヘルプサービス、デイサービス、ショートステイなどについて高齢者や障害者が共に利用できる共生型サービスが創設されました。今まで、障害者と高齢者は別々の分野でありましたが、今後は相談支援専門員と介護支援専門員が連携していくようになっていきます。相談支援専門員でも介護サービスの知識を身に付け、利用者が安心して生活できるプランの作成を今後も目指していきます。

誕生日外出



HAPPY
BIRTHDAY



利用者さんの誕生日には、担当職員と食事に出かけます。好きなものを食べ、誕生日プレゼントを買い、楽しい一日を過ごします。



職員日記

生活支援員 中山 明日美

ぬいぐるみが好きです。何故かと言われてもわかりませんが、ついつい買ってしまいます。例え26歳であろうとも、独身であろうとも、これを読んだ後に誰かが「中山さん、ぬいぐるみ好きなの？キャラ作ってるでしょ？」と言われようとも好きなんです。そこは覆らないので悪しからず。

その中でも一番のお気に入りはおらんウータンの「オラ太」。もうひとつはディベアの「クマ太」。安直な名前でしょうか？自分でもこのネーミングセンスの無さに脱帽します。脱帽しすぎて最早天才なのでは？と思う域です。

そんなネーミングセンスの無い私ですが、つい最近新しい仲間を投入しました。水族館で購入した大きなクジラのぬいぐるみです。抱きごこちも良く、我がぬいぐるみナインの中で既に4番を張っている大型ルーキー。まさにぬいぐるみ界のゴジラ松井（クジラだけど）。そんな期待の新人だからこそ、ビッグなネームを考えなくてはと悩んだ結果、意気揚々とつけた名前は「くじ太」。

わかってた…。こうなることはわかってた…。オラ太、クマ太、くじ太。もうダサネーミングが3つ揃ってピンゴ。これから先、ぬいぐるみを増やしても「太」の畏からは抜け出せない。

それでも名前を付けてしまうと愛着は湧いてしまうものでして。今では三体とも私の部屋で仲良く寄り添っています。そんなかわいい私のぬいぐるみ達ですが、私の母は彼らを「ほこり玉」と呼んでいます。母はいつか、私の愛するぬいぐるみ達を認めてくれるのでしょうか…。





クリスマス会・新年会・節分

年末年始には、イベントが目白押し。クリスマス会ではサンタさんから素敵なプレゼントをもらって、おいしいケーキを食べて楽しいひと時を過ごしました。新年会では、例年お寿司の食べ放題。回らないお寿司に、皆(職員も!)大喜びです。午後は、着物を着て写真をとったり、書初めをしたりと楽しい一日でした。



節分には、職員と利用者が扮した赤鬼、青鬼が登場。みんな思い切り鬼に向かって豆を投げていました。今年も無病息災で過ごせますように。

成年後見人さんと外出

利用者さんとその成年後見人さんと、近所の喫茶店に出掛けました。以前より計画していたものがやっと実現。コクと香りがたまらない本格派コーヒーとクリームたっぷりふわふわパンケーキを食べて、幸せを感じるひと時を過ごしました。

主任生活支援員 秋山 直樹



久喜マラソン

3月25日に埼玉県久喜市で開催された「第3回よるこびのまち久喜マラソン大会」に参加してきました。3km部門に参加し、見事制限時間内に完走することができました。ゴール後は「頑張りました!」と素敵な笑顔を見せてくれました。

主任生活支援員 増淵 歩美



ありがとうの会・・・樋口さん ありがとう

利用者の変化に素早く気づき、温かい対応をしてくれた樋口看護師が4月16日で退職することになりました。いつも太陽のような笑顔で接してくれ、皆を明るくしてくれました。利用者さんを代表して、2名の方から花束を渡してもらいました。いつもの明るい笑顔で「また来るね!」と声を掛けてくれ、私たちも笑顔でお見送りすることが出来ました。

またいつでもくすのき苑に遊びに来て下さいね。

生活支援員 齋藤 貴子



新任職員紹介



生活支援員
葛原 聖人

初めまして。3月からくすのき苑でお世話になってます。まだまだ未熟者ですが、これまでの経験を活かし一日でも早く一人前になれるように精進致します。今後とも宜しくお願いします。



生活支援員
亀井 梨加

1月より生活支援員としてくすのき苑で働いております。亀井梨加です。

利用者の皆さんが日々快適に、楽しく生活できるよう精一杯サポートさせていただきます。宜しくお願い致します。



生活支援員
宮崎 楓

4月からくすのき苑の生活支援員として働くことになりました。宮崎楓です。

まだまだ未熟で分からないことも沢山ありますが、明るく笑顔で一生懸命頑張ります。



看護師
成瀬 幾美

4月より看護師としてお世話になっております。成瀬です。皆さんのお役に立てるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願い致します。



生活支援員
清宮 和博

4月からくすのき苑で働く事になりました清宮和博です。利用者の方が安心して毎日を過ごせるように精一杯努力していきたいと思っております。これから宜しくお願い致します。



生活支援員
(非常勤準職員)
村崎 広行

はじめまして、村崎広行です。頑張って仕事していきたいと思っております。よろしく申し上げます。

行事報告

1月 冬期帰省 (12/28 ~ 1/4) 新年会

2月 節分 豆まき

3月 健康診断
理事会、評議員会
ありがとうの会



ご寄付に感謝いたします



今年度も後援会よりご寄付をいただき有り難うございました。今後とも、宜しくご支援のほどお願いいたします。

あとがき

最近、息子が縄跳びに夢中である。久しぶりに3重跳びをやってみたが、意外にも跳ぶことが出来た。歳はとったが身体は覚えている。縄跳びも仕事もまだまだ若い者には負けていけない。(まだ36歳!)

(内山)

春は私にとって憎き花粉との戦いの時期です。嫌いな病院にも早めに顔を出し、毎日しっかりと薬を飲んでいますが、それでも目やら鼻やらグズグズです。雨が全てを洗い流してくれればいいのにな。

(伊藤)

いちいの会だより VOL.47

発行 社会福祉法人 いちいの会 くすのき苑
〒270-0222 野田市木間ヶ瀬3 1 2 1
TEL: 04-7120-6667
FAX: 04-7120-6668
発行人 総合施設長 清本 健二郎
編集 広報委員会 内山・伊藤・中島
発行日 平成30年4月吉日
E-mail kusunokien@nifty.com
H P http://www.ichiinokai.com/